
ツレツレなるままに ～冬～

Wonder Forest

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ツレヅレなるままに 〵冬〵

【Nコード】

N3837Y

【作者名】

Wonder Forest

【あらすじ】

何時もどおりの日常に、少しスパイスが入ったお話の3部目です。

前編

「ねえ、あの人、モデルさんかな？」

「外人さんって皆あんなに綺麗なの？」

「やべえ、俺声掛けてこようかな」

店にいた客たちが口々に言う。

西洋な顔立ちに似合わない、いや、一種の幻想的な空気さえ漂わせる真っ黒な髪に、ビー玉より透けた青い目の女性が五分ほど前から店でただじつとどこかを見ている。

そんな噂の渦中の人に、バイト上りの僕は声を掛ける。

「ごめん、待った？」

殴られた、痛くはないけど。

「おせえよ、どんだけ待たせんだよ」

「だから、終わったら連絡するって言ったのに！」

「うつせえ！ たまたま通りかかったんだよ！！」

周りの人たちが、その綺麗な声から出てくるとは思えない言葉に、びっくりした顔でいる。

「ほら、周りの人たちが驚いてるよ?」

「ああ?」

威嚇的に周りを見る、さつと目線を逸らす人たち。

「まあいいんだよ」

千冬は、向き直る。

「んで、もういいのか?」

「うん、大丈夫ークロワッサン今日は焦げちゃったから、メロンパンで許してねー」

「は?ふざけんなよ、一二三てめえ、しっかりしろや」

「ごめんねー」

「もういいわ。とりあえず帰るぞ」

手を強く引つ張られながら店を出てゆく。客は目を丸くしたまま。

手を強く引かれたまま、家についてそうそう言われる、

「ほら、さつさと風呂入れよ。きたねえんだよ。」

「うんー。一緒に背中流しっこしよー」

「ふざけんな、入りたきゃ一人で入れ。せめえんだよ」

「そうだけどー、二人の方が楽しいのになー。」

そう、言いながら脱衣所に入っていく。

頭を洗っていると、音がして千冬が入ってくる。

「てめえ、ちゃんとシャンプーハット着けろって言うてんだろ！」

頭を洗ってる状態でシャンプーハットをはめてくる。

「いや、ちょっとまってーそれじゃシャンプーが入・・・ぎゃあああ」

目がああああ！！目がああああ！！

「あつ、ちょ、お前しつかりしろ！！」

慌ててシャワーを目に当てる、蛇口全開で。

「きゃぴiiiiiiii！！」

「ちょっと狭いだろ、一二三、出るよ」

「向かい合わないで、こっちおいでよー」

おいでおいでする。また殴られる。

「尚更、狭くなんだろ」

とか言いながら、角度を反転させる千冬。

思わず抱きしめて頬擦りしちゃう。

「きゃっ」

あ、可愛い声出た。

「てめえ・・・」

真っ赤にした千冬、「可愛いです。」あ、声出た。

千冬がもつと真っ赤になった。

「・・・うつせえ。」

小さく、千冬は言葉を返した。

「ったく、なんでこの家は、布団が一枚しかねえんだよ。」

千冬が愚痴をこぼす。

「いいんだよー、僕、ソファで寝るからー」

「ふざけんな、家主が布団で寝ないでどうすんだよ。」

「えー？千冬ちゃんをソファで寝かせられないよー」

「それこそふざけんな、私も布団で寝るんだよ」

「あー、なるほどねー。枕の代わりにクッションどれでも使っていよー」

千冬は迷わず僕の腕を取って、

「お前の腕枕で、いいんだよ」

「明日千冬ちゃんお休みなのに、僕休みじゃなくてごめんねー」

「は？私がお前のところ行って、パン食ってれば、デートだろ。」

「わー来てくれるんだー。明日は頑張って焼くねー」

「全くだ。明日はちゃんと作れよー!!」

「うんー・・・千冬ちゃん大好きー」

あまりの愛しさに、抱きしめる。

「・・・!!私は大嫌いだよ!!」

千冬は顔を上げて、唇を重ねる。

「嘘だけど」

最後の言葉は、消え入りそうな声で。

「んふふー」

「きめえんだよ！！寝るぞ！！明日も早いんだろ！！」

きつと、千冬がまた顔を真っ赤にしているかと思ったら、含み笑いが中々抜けなかった。

前編（後書き）

どうも、始めましてだったり、こんにちはの人もあるかな？
わんだーふおれすです。

お楽しみ頂ければ幸いです。

このお話は2編で終わりますので、次が後編です。

次予定：11/21

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3837y/>

ツレヅレなるままに ～冬～

2011年11月20日10時38分発行